

■農村環境配慮総合演習(H23.10.3) at 栃木県那須烏山市の「荒川南部地区」



・現地調査で講師から説明を受ける研修生。



・水棲生物に配慮し作られたワンド。



・水棲生物の移動のために水田と水路を結ぶために設置したパイプ魚道(矢印の先)。



・パイプ魚道の水路側と水田側の出入り口を観察している状況。



・荒川南部地区で環境配慮のきっかけとなった彼岸花。



・水棲生物に配慮して残した土水路の生物を観察している状況。



・塩ビパイプによるパイプ魚道水田側の出口(矢印の先)。



・田んぼ公園
ミドリシジミ等の蝶類の保護のため、耕作放棄地にハンノキが繁茂した水田を県が買い取り公園にした。



・猿久保地区の上流部の高台で地区の説明を受けました。



・地区周辺の斜面林についても、別事業で下草刈りなどの管理が行われていました。



・看板が立っているところが、耕作放棄地を県で買い取り、田んぼ公園にした所。元が水田と思えないほどハンノキが繁茂していました。



・午後は、荒川南部地区での環境配慮について、関係者(県、改良区、地元)との討論会を行いました。